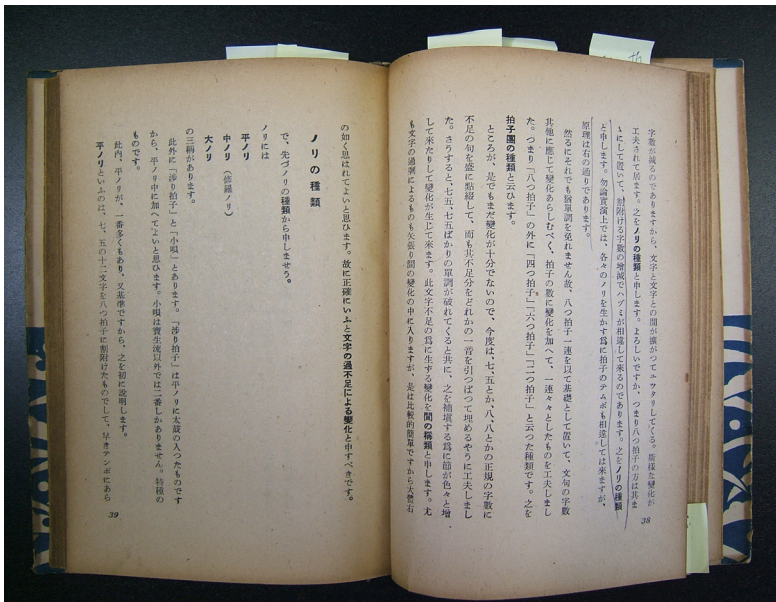
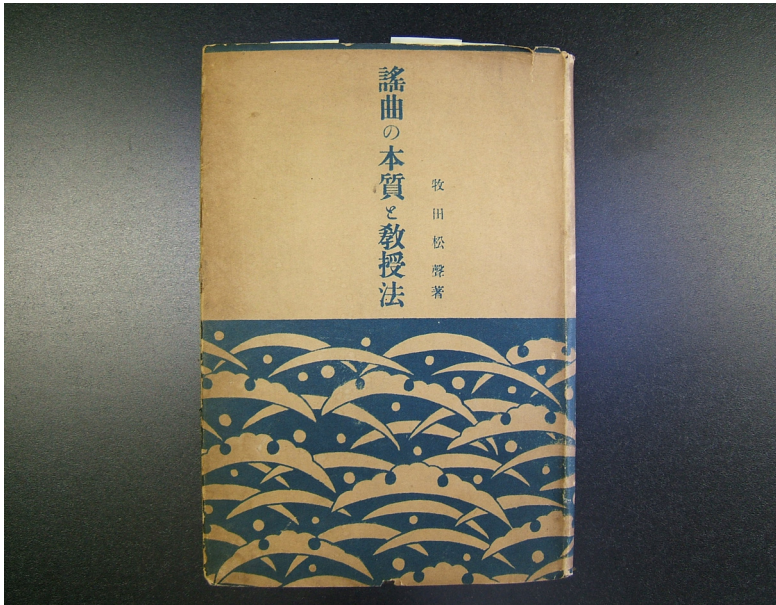


牧田松聲 『謡曲の本質と教授法』

著者は謡を「劇『能』」の歌詞を謡ふ声楽にして、拍子楽器により時間的支配を受くる事あるも、音階的には何等支配さるゝ事なき独立的声楽なり」（七頁）と定義する。謡の要諦として強調されるのは、まずは劇として面、次に「謡曲文の組織、文学的内容」、続いて「拍子と謡曲との関係」となる。以上の説明が行われる前編七十頁分において、約半分が拍子の説明に費やされる。「本地」「トリ」等の枠の総称として「拍子団」という造語を使用する（写真下）。こうした点に著者の合理的志向が現れている。



標題 内題：—

標題紙：謡曲の本質と教授法

奥 附：謡曲の本質と教授法

その他：謡曲の本質と教授法（表紙・背）

著者 奥 附：牧田松聲

その他の場所：牧田松聲（標題紙・表紙）

出版 版 次：第四版

出版地：東京

出版社：能楽書林

出版年：昭和25（1950）

その他の場所：—

形態 冊 数：一冊 頁 数：一二三頁

寸 法：19×13（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 初版年不明。